

早稲田大学スポーツ科学部でのインターンシッププログラム



間野 義之

早稲田大学 スポーツ科学学術院 助教授

要 約

早稲田大学がスポーツ科学部を創設した背景には、さまざまな側面からスポーツ科学に寄せられる社会的期待がある。スポーツを多彩な科学的手法によって究めていくことで、スポーツマインドと幅広い科学的素養を併せもった、新たなワセダマン・ワセダウーマンを育成することにある。本学部には、スポーツ医科学科、スポーツ文化学科の2学科があり、さらに7コース（スポーツ医科学コース、健康スポーツコース、トレーナーコース、スポーツ文化コース、スポーツビジネスコース、スポーツ教育コース、トップパフォーマンスコース）がある。本学部のインターンシップは、履修学生が所属する学科によって決定されるものであり、「スポーツビジネス実習」はスポーツ文化学科3年生を、「フィットネスプロモーション実習」は、スポーツ医科学科3年生の希望者が履修する。「スポーツビジネス実習」は、スポーツビジネスに関する基礎的な理解を前提として、用具用品の製造・販売、スクーリング、クラブ運営、広告宣伝などについて、スポーツビジネスの現場での体験を通じて、スポーツビジネスの意義を体感するとともに、その実務を学ぶ。

「フィットネスプロモーション実習」では、健康スポーツに関する基礎的な事項を理解している学生を対象として、運動・スポーツ・身体活動などのプロモーションを通じた健康増進や介護予防の現場での体験を通じて、健康スポーツの意義を体感するとともにその指導技法を学ぶ。受入機関ならびに人数は、2006年度で、プロスポーツクラブ・チーム9人、プロスポーツ団体・協会5人、スポーツメカ6人、マスメディア2人、広告代理店1人、フィットネスクラブ1人、スポーツ団体1人、スポーツ施設1人、スポーツ行政1人、合計28人であった。米国のメジャーリーグベースボールの、ロサンゼルス・ドジャーズについては、スポーツ科学部設立時に、前オーナーのピーター・オマリー氏からの提案により導入が実現した。評価は、事前授業・セミナー、実習出席率、実習日誌、受け入れ先評価、実習報告書の5項目を所定の計算式により100点満点で数値化した結果に基づいて行っている。実習日数は、2005年度で15.2日、2006年度が13.6日であり、出席率はそれぞれ98.0%、96.3%であった。受け入れ先の評価は、満足度を5段階尺度で評価している。

現段階では、独自のインターンシップ・プログラムを手探りで2年度ほど実施したに過ぎないが、これまでに大きなトラブルは無かった。しかし、受入機関・受入人数が限られていることもあり、希望する学生すべてにプログラムを提供できたわけでもない。したがって、今後は以下の課題を克服していきたい。

- 1) 受入機関・業種の拡大
- 2) 履修学生のビジネスマナー等の教育訓練の徹底
- 3) 未履修学生に対する履修経験者からの諸事伝達の充実
- 4) 事務手続きの簡素化